

新型コロナに負けるな、世田谷区！

インフルエンザの流行も、各自の手洗いとマスク着用で抑えられるとのこと。

いそだくみこ

電機メーカー勤務、衆議院議員秘書を経て2019年4月に区議に初当選。
本号は第3回定例会と決算特別委員会の報告です。

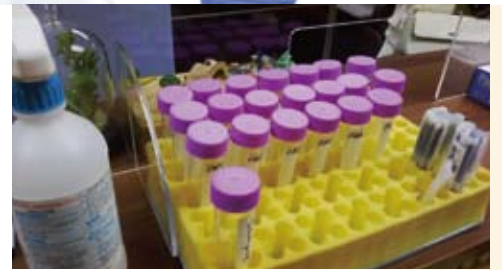


2020. 秋号

特集 “PCR社会的検査”とは？

世田谷区が
名づけ親

区では介護事業所等の利用者の感染に伴う重症化やクラスター発生を防ぐため、
①感染の疑いがある人向けには、一日当たりの検査数を300件から600件へ
②介護事業所や障害者施設、保育園などの職員(計約2万6千人)に対しては、症状がなくても希望者に検査を実施すること を決定しました。^{※1} ②を社会的検査と呼びます。
7月末のメディア報道当初、ニューヨークの例を引き「いつでも誰でも何度でも」というキャッチフレーズが繰り返されご質問も多くなりましたが、議会と区とで具体的な内容、財源などについて検討し、第3回定例会で上記のように成立。②のような検査は千代田区も8月に開始、東京都の費用助成の対象になります。^{※2}



自費検査では一般的なPCR唾液検査

※1 10月開始、10月25日現在で延べ423人検査、うち陽性者2人
※2 詳しくは区のホームページより「介護事業所等を対象としたPCR検査(社会的検査)の実施について【10月6日】」をご参照ください。



かかったかなと思ったら……相談窓口

感染拡大防止のため、相談はまずお電話で!

- 世田谷区帰国者・接触者電話相談センター
03-5432-2910 (平日8:30~17:15)
- 土日休日・平日夜間の相談は
東京都新型コロナ患者相談センター
03-5320-4592
- またはかかりつけ医やお近くの医院にお電話を。
PCR検査は医療機関からも紹介可能です。

参考: 世田谷区役所および厚生労働省ホームページ

活動報告

大学生インターン
加藤くん、川崎さんと▼

初めてのインターン生を迎えて ～小中学校の給食アンケート

区議になって初めて大学生インターンお二人を迎え、区施設の見学をしたり街頭活動や事務作業を手伝ってもらったり、区民の集会と一緒に参加したりしました。

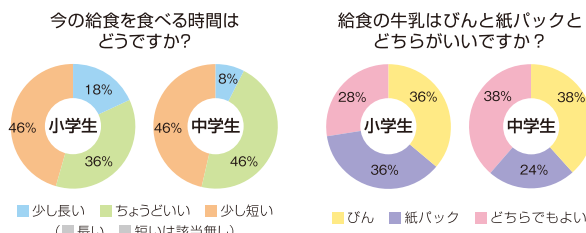


世田谷区の給食について調査

政策課題としてインターンとともに小中学校の給食について調査、地元小中学生や高齢者に給食、配食サービスのアンケートを行い、全国の給食メニューや昼食時間を調べ世田谷区の改善点を考察しました。

平成30年度の区立小中学校の給食残量データを分析したところ、ひとり当たりの残量で比較すると多い学校は少ない学校の約2倍以上と学校ごとの違いが大

きいこと。また、中学生の残量は小学生の1.5倍と、成長期であるにもかかわらず食べ残しが増えていることがわかりました。区立小学校の給食時間は50分、中学校は30分。食事時間についての質問は、小中学生とも、「食べる時間が少し短い」との回答が最多でした。



小学校給食の例



運動能力・体格が全国トップクラスの福井県とメニュー比較(ホームページより転載)

4月から牛乳が瓶から紙パックになり、リサイクルのため畳むことが求められていますが、ますます食事時間が少なくなることが懸念されます。

全国的にみると各地域とも給食メニューに工夫を凝らしており、メニュー開発と食事時間の確保に世田谷区はさらに力を入れるべきと結論づけました。

皆様のご意見、ご質問もお待ちしております。下記までお寄せください。





令和2年 第3回定例会 一般質問

◀マスク着用での一般質問は呼吸が苦しく、壇上ではマウスガード使用が認められました。

区立小中学校の給食改善について

Q1 一人当たりの給食残量を算出したら、学校ごとの残量差が大きいこと、中学生は小学生の残量の1.5倍とわかった。中学校の給食時間30分は全国的に見ても短いのではないかと児童生徒に給食に関するアンケートを取り改善に生かしてはどうか？

A 人気メニュー調査や食べ残し量の多いメニューの改善、家庭教育との連携、人気メニューのレシंप全校共有を実施している。今回の問題提起の点を踏まえ、様々な方策を検討し“残さず食べてもらえる給食”を目指す。

PCR社会的検査における共同研究の体制について

Q2 区は東大先端技術研究所が実証試験中のプール方式のPCR検査を導入し検査の迅速化、低コスト化を図ると聞いたがそのスケジュールは？ また社会的検査については専門機関に効果検証してもらう必要があるのではないかと？

A プール検査については国の承認後、先端研の提言を踏まえ導入していく。また効果検証については国や都と情報共有し、広域的な取組みとして考えていく。

世田谷区は東大先端研と高齢者雇用、環境、新型コロナウイルス対応などで協力協定を結んでいる(2020年7月)★



PCR自費検査の実態調査と助成の必要性

Q3 仕事や家庭の事情でやむを得ず、PCR検査を自費で受ける人が増えている。自費検査は2.5~3万円と高額で、社会的検査の対象となり無料で受診できる介護施設職員などと比べると不公平だ。他自治体では自費検査の助成を行っているところもあり、世田谷区でも検討すべきでは？

A まずは社会的検査の実施体制を整え、自費検査については国や都の動向を注視していく。

★印の写真は各々のホームページより転載

決算特別委員会質問

区民生活領域



●コロナ禍のものづくり学校について

貸オフィスに出勤している人が少なくなっている。①案内人がいなくても見学者が理解できるような見学コースや案内表示板の工夫と、②在宅ワークの人が利用しやすいコワーキングスペースの増設を求めました。

●シルバー人材センターのイメージアップについて

3千人が登録、うち1/3が女性で、ほぼパソコンが使える経験を生かせる人材が集まっているにも関わらず、受託業務は草取り、清掃、家事援助が中心。登録者の経験や特技を生かし、シルバー人材センターを時代に合った内容に変える働きかけを要望しました。



ものづくり学校
コワーキングスペース★



シルバー人材の小中学生
学習教室授業風景★

●国際化への取組みについて

今年は国際交流には受難の年。区内在住外国人へのインターネットによる情報提供の取組みを聞き、またせたがや国際メッセについては規模を縮小し実施することを確認しました。

せたがや国際メッセ
12月19日(土)
成城ホールにて
開催予定

都市整備領域

●区の緑化助成について

前年は十分に活用されていなかった緑化助成制度。前回提案した周知活動がシンボルツリーや生垣の実績につながったことを確認しました。

一時流行した壁面緑化より、限られたスペースで自然を演出できるシンボルツリーが人気のようです。



●落葉の再利用について

落葉ひろいりレーで回収した落葉のほとんどが焼却されている。区民参加で落葉堆肥を作って花壇や農業に再利用してはどうかと質問し、現在でも数か所で実施しており、今後拡大を検討し資源の循環に努めるとの回答を得ました。



落ち葉だめ(腐葉土づくりやカブトムシの幼虫の住処にする)

●公園の整備について

緊急事態宣言中に公園が混雑し、世田谷区の公園面積が足りないことが顕在化。整備計画と、防犯のための照明設備に再生エネルギーを活用することを確認しました。



ソーラー照明(二子玉川公園)



いそだ久美子プロフィール

1966年神奈川県生まれ 県立厚木高校、早稲田大学第一文学部卒。

三菱電機株式会社に入社、事務系総合職として勤務。衆議院議員手塚よしお秘書に転身、2019年世田谷区議会議員選挙初当選。労働問題、産業振興、都市計画などに取り組む。

<http://www.isokumi.com>